



2019年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年8月3日

上場会社名 持田製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 竹田 雅好

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 2018年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第1四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|--------|------|-------|------|-------|------|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2019年3月期第1四半期 | 29,800 | 2.7 | 6,167 | 3.6 | 6,286 | 3.1 | 5,843 | 35.3 |
| 2018年3月期第1四半期 | 29,011 | 18.4 | 5,954 | 44.6 | 6,097 | 41.2 | 4,318 | 31.9 |

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 7,169百万円 (44.9%) 2018年3月期第1四半期 4,946百万円 (27.2%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2019年3月期第1四半期 | 294.37 | |
| 2018年3月期第1四半期 | 217.54 | |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|---------|---------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2019年3月期第1四半期 | 159,458 | 124,920 | 78.3 |
| 2018年3月期 | 155,047 | 119,687 | 77.2 |

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 124,920百万円 2018年3月期 119,687百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|--------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2018年3月期 | | 72.50 | | 97.50 | 170.00 |
| 2019年3月期 | | | | | |
| 2019年3月期(予想) | | 80.00 | | 80.00 | 160.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|------|-------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 110,000 | 3.0 | 7,000 | 40.0 | 7,300 | 39.2 | 6,400 | 29.1 | 322.39 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|------------|--------------|----------|--------------|
| 2019年3月期1Q | 20,315,000 株 | 2018年3月期 | 20,315,000 株 |
|------------|--------------|----------|--------------|

期末自己株式数

| | | | |
|------------|-----------|----------|-----------|
| 2019年3月期1Q | 463,331 株 | 2018年3月期 | 463,272 株 |
|------------|-----------|----------|-----------|

期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|------------|--------------|------------|--------------|
| 2019年3月期1Q | 19,851,680 株 | 2018年3月期1Q | 19,853,274 株 |
|------------|--------------|------------|--------------|

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 8 |
| 3. 補足情報 | 9 |
| (1) 主要製品の売上高 | 9 |
| (2) 医薬品等開発状況 | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

医薬品業界では、社会保障費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制政策が継続的に推し進められ、また企業間競争も加速しており、引き続き厳しい事業環境にあります。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）は、事業環境の変化にも対応し持続的に成長し続けるために、利益重視と将来への投資の継続を基本方針とし、「営業力強化による新薬等への注力」「次世代の柱構築のための継続的な投資」「選択と集中による、リソースの戦略的再配分」に重点的に取り組みました。医薬品関連事業では、循環器、産婦人科、皮膚科、精神科、消化器の重点領域等へリソースを集中し、スペシャリティファーマを目指して、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、敏感肌のための基礎化粧品のエキスパートとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、298億円、前年同期比2.7%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業では、2018年度薬価改定があった中で、新薬の慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤「トラムセット」、抗うつ剤「レクサプロ」、潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」等の売上高が伸長しました。2018年1月に販売を開始した抗悪性腫瘍剤「ドキシル」及び同年4月に販売を開始した慢性便秘症治療剤「グーフイス」も寄与しました。長期収載品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エバデール」、持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」及び子宮内膜症・子宮筋症治療剤「ディナゲスト」等の売上高は、薬価改定及び後発品使用促進策の影響等により、それぞれ前年同期売上高を下回りました。後発品事業は「ディナゲスト」のオーソライズド・ジェネリックの伸長に加えて、2018年5月に上市したバイオ後続品エタネルセプトBS「MA」の寄与もあり、売上高は前年同期を上回りました。医薬品関連事業の売上高は、ロイヤリティ収入等の増加により、全体としては286億5千5百万円、前年同期比2.9%の増収となりました。なお、アマリン社と新規高純度EPA製剤の米国及び他地域における開発及び商業化に関する契約を2018年6月に締結しました。

ヘルスケア事業につきましては、市場成長は上昇傾向にありますが、競争が激化しております。こうした事業環境の中で、抗真菌成分配合シャンプー・リンス等の「コラージュフルフルシリーズ」の売上高が堅調に推移しましたが、ヘルスケア事業の売上高は11億4千4百万円、前年同期比1.2%の減収となりました。

次に当第1四半期連結累計期間の利益面につきましては、薬価改定の影響がありましたが、ロイヤリティ収入等の寄与により売上総利益が増加し、また研究開発費の減少を主な要因として販売費及び一般管理費が前年同期を下回ったことにより、営業利益は61億6千7百万円で前年同期比3.6%の増益、経常利益は62億8千6百万円で前年同期比3.1%の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、原料価格に関する契約解釈をめぐる和解金による特別利益の計上があり、58億4千3百万円で前年同期比35.3%の増益となりました。

研究開発の状況につきましては、研究面では、オープンイノベーションの推進を通じた早期開発候補品の導入等により開発パイプラインの充実を図るべく創薬研究活動に取り組んでおります。また、統合失調症治療薬、疼痛治療薬（TRPV1拮抗薬）の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、EAファーマ株式会社と共同開発を行っている慢性便秘症治療剤「AJG555」については同社が製造販売承認申請中です。株式会社富士薬品と共同開発を行っている痛風・高尿酸血症治療剤「FYU-981」、「ディナゲスト」の月経困難症の効能追加及び「リアルダ」の小児適応については、それぞれ臨床第Ⅲ相試験を実施中です。「レクサプロ」の小児適応及び新規EPA製剤「MND-2119」の臨床第Ⅲ相試験を準備中です。肺動脈性肺高血圧症治療剤「MD-711」については、臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験を準備中です。また、中国において「エバデール」の高トリグリセリド血症の適応取得を目的とした臨床試験を準備中です。関節軟骨損傷治療材「dMD-001」は探索的臨床試験（パイロット試験）を実施中です。

当第1四半期連結累計期間の研究開発費は、20億5千2百万円であります。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第1四半期連結会計期間末の総資産は、1,594億5千8百万円となり、前連結会計年度末比で44億1千万円増加いたしました。

資産の増加は、主に現金及び預金が減少しましたが、受取手形及び売掛金、その他流動資産、投資有価証券が増加したためです。負債の減少は、主にその他流動負債が増加しましたが、支払手形及び買掛金、電子記録債務、賞与引当金が減少したためです。純資産の増加は、主に配当金の支払による利益剰余金の減少がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加や投資有価証券の時価上昇によるその他有価証券評価差額金が増加したためです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、2018年5月14日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 45,683 | 41,686 |
| 受取手形及び売掛金 | 31,320 | 36,881 |
| 電子記録債権 | 449 | 438 |
| 有価証券 | 7,999 | 7,999 |
| 商品及び製品 | 16,950 | 17,360 |
| 仕掛品 | 1,513 | 1,887 |
| 原材料及び貯蔵品 | 6,542 | 6,199 |
| その他 | 2,691 | 4,439 |
| 流動資産合計 | 113,151 | 116,892 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 5,677 | 5,572 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 2,207 | 2,087 |
| 土地 | 5,256 | 5,256 |
| その他（純額） | 774 | 759 |
| 有形固定資産合計 | 13,915 | 13,675 |
| 無形固定資産 | 365 | 337 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 17,597 | 19,484 |
| 繰延税金資産 | 4,004 | 3,323 |
| その他 | 6,012 | 5,744 |
| 投資その他の資産合計 | 27,614 | 28,552 |
| 固定資産合計 | 41,895 | 42,565 |
| 資産合計 | 155,047 | 159,458 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 13,430 | 12,775 |
| 電子記録債務 | 3,067 | 2,138 |
| 未払法人税等 | 1,233 | 1,104 |
| 賞与引当金 | 2,499 | 1,122 |
| その他の引当金 | 877 | 673 |
| その他 | 8,463 | 11,006 |
| 流動負債合計 | 29,574 | 28,820 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付に係る負債 | 5,374 | 5,304 |
| その他 | 412 | 412 |
| 固定負債合計 | 5,786 | 5,716 |
| 負債合計 | 35,360 | 34,537 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 7,229 | 7,229 |
| 資本剰余金 | 1,871 | 1,871 |
| 利益剰余金 | 104,625 | 108,533 |
| 自己株式 | △2,349 | △2,350 |
| 株主資本合計 | 111,376 | 115,284 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 8,305 | 9,615 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 4 | 20 |
| その他の包括利益累計額合計 | 8,310 | 9,636 |
| 純資産合計 | 119,687 | 124,920 |
| 負債純資産合計 | 155,047 | 159,458 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 29,011 | 29,800 |
| 売上原価 | 13,383 | 14,099 |
| 売上総利益 | 15,628 | 15,700 |
| 返品調整引当金繰入額 | — | 2 |
| 差引売上総利益 | 15,628 | 15,698 |
| 販売費及び一般管理費 | 9,673 | 9,530 |
| 営業利益 | 5,954 | 6,167 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 0 |
| 受取配当金 | 108 | 125 |
| その他 | 41 | 37 |
| 営業外収益合計 | 150 | 163 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1 | 0 |
| 支払手数料 | 3 | 3 |
| 為替差損 | — | 37 |
| その他 | 2 | 2 |
| 営業外費用合計 | 7 | 44 |
| 経常利益 | 6,097 | 6,286 |
| 特別利益 | | |
| 受取和解金 | — | 1,557 |
| 特別利益合計 | — | 1,557 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 1 | 4 |
| 特別損失合計 | 1 | 4 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 6,096 | 7,839 |
| 法人税等 | 1,777 | 1,996 |
| 四半期純利益 | 4,318 | 5,843 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 4,318 | 5,843 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 4,318 | 5,843 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 590 | 1,309 |
| 退職給付に係る調整額 | 36 | 16 |
| その他の包括利益合計 | 627 | 1,325 |
| 四半期包括利益 | 4,946 | 7,169 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 4,946 | 7,169 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 補足情報

(1) 主要製品の売上高

主要製品の売上高 (2019年3月期 第1四半期実績)

(単位：億円)

| 製 品 名 | 前 期 2018年3月期 | | 当 期 2019年3月期 | | 対前年 同四半期 増減率 |
|------------------------|-----------------|----------|-----------------|----------|--------------------|
| | 第1四半期 実績 | 年間 実績 | 第1四半期 実績 | 年間 見込 | |
| 慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤 トラムセット | 59 | 228 | 59 | 247 | + 1% |
| 抗うつ剤 レクサプロ | 34 | 137 | 35 | 148 | + 2% |
| 高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール | 49 | 183 | 38 | 146 | △ 23% |
| 持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック | 18 | 67 | 14 | 55 | △ 21% |
| 潰瘍性大腸炎治療剤 リアルダ | 2 | 25 | 14 | 38 | + 441% |
| 抗悪性腫瘍剤 ドキシル | - | 6 | 7 | 27 | - |
| 肺動脈性肺高血圧症治療剤 トレプロスト | 4 | 17 | 4 | 19 | △ 3% |
| 子宮内膜症・子宮腺筋症治療剤 ディナゲスト | 33 | 48 | 5 | 18 | △ 85% |
| 血液凝固阻止剤 ヘパリンNa | 4 | 16 | 3 | 15 | △ 13% |
| 抗ウイルス剤 アラセナ-A | 4 | 15 | 3 | 14 | △ 20% |
| 慢性便秘症治療剤 グーフィス | - | - | 4 | 13 | - |
| 肺炎・ショック治療剤 ミラクリッド | 3 | 11 | 2 | 10 | △ 17% |
| 真菌症治療剤 フロリード | 2 | 10 | 2 | 10 | + 2% |
| 尖圭コンジローマ・日光角化症治療剤 ベセルナ | 2 | 9 | 2 | 9 | + 2% |
| 後発品 | 41 | 178 | 47 | 192 | + 14% |
| スキンケア製品 | 11 | 47 | 11 | 49 | △ 1% |

- ・レクサプロは、自社販売と田辺三菱製薬株式会社への販売の合算
- ・アテレックは、アテディオを含む
- ・ドキシルは、2018年1月より販売を開始
- ・グーフィスは、2018年4月より販売を開始

(2) 医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

| 開発コード 〈一般名〉 [製品名] | 開発段階 ¹⁾ | 予定適応症 | 剤型 | 備 考 |
|--------------------------------------|--------------------|--------------------|-----|---|
| AJG555 〈未定〉 | 申請中 | 慢性便秘症 | 経口剤 | EAファーマ(株)と共同開発 申請:EAファーマ(株) |
| FYU-981 〈未定〉 | 臨床第Ⅲ相 | 痛風・高尿酸血症 | 経口剤 | (株)富士薬品と共同開発 |
| MJR-35 〈ジェノゲスト〉 [ディナゲスト] | 臨床第Ⅲ相 | 月経困難症 (効能追加) | 経口剤 | イエナファーム社(現バイエルAG社のグループ 会社)から導入 自社開発 |
| MD-0901 〈メサラジン〉 [リアルダ] | 臨床第Ⅲ相 | 潰瘍性大腸炎 (小児適応) | 経口剤 | シャイアー・ファーマシューティカルズ・グループ社 から導入 自社開発 |
| MLD-55 〈エスシタロプラムシュウ酸塩〉 [レクサプロ] | 臨床第Ⅲ相準備中 | うつ病・うつ状態 (小児適応) | 経口剤 | ルンドベック社から導入 自社開発 |
| * MND-2119 〈イコサペント酸エチル〉 | 臨床第Ⅲ相準備中 | 高脂血症 | 経口剤 | 自社開発 |
| * MD-711 〈トレプロスチニル〉 | 臨床第Ⅱ/Ⅲ相準備中 | 肺動脈性肺高血圧症 | 吸入剤 | ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発 |
| * MND-21 〈イコサペント酸エチル〉 [エパデール] | 臨床試験準備中 | 高トリグリセリド血症 | 経口剤 | 開発地域:中国 住友製薬(蘇州)と提携 |
| LBAL 〈アダリムマブ〉 | — | 関節リウマチ | 注射剤 | バイオ後続品 LG Chem社から導入 自社開発 |
| RGB-10 〈テリパラチド〉 | — | 骨粗鬆症 | 注射剤 | バイオ後続品 ゲデオン・リヒター社から導入 自社開発 |

【医療機器】

| | | | | |
|-------------------------|------------------------------------|--------|--|------|
| dMD-001 〈アルギン酸ナトリウム〉 | 探索的臨床試験 ²⁾ (パイロット試験) | 関節軟骨損傷 | | 自社開発 |
|-------------------------|------------------------------------|--------|--|------|

* 2018年3月期決算短信(2018年5月14日公表)からの変更点

- 1) バイオ後続品の開発段階については非開示
- 2) 医療機器の開発段階は医薬品とは異なり、第Ⅰ相から第Ⅲ相のような区分はなく、その内容により探索的臨床試験と検証的臨床試験に区分されます。